

令和2年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（豊岡市立豊岡北中学校） 校長名（廣井 文隆 印）

1 学校教育目標

(1) 教育目標 「 ふるさと豊岡を愛し、自立・共生できる生徒の育成 」
 (2) 校訓 「 誠実 」

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

○生徒アンケート（授業、家庭生活、学校生活等）及び保護者アンケートとともに教職員による自己評価を実施した。自己評価の項目を昨年度より細分化して実施し、より細やかに教育活動について見直す機会とした。
 ○教職員が肯定的に感じているが、保護者は不十分だと感じている項目については、保護者の思いをしっかりと受け止める必要がある。
 ○小中一貫教育で行っている授業に関するアンケートは、それぞれの教職員が自分の授業を振り返る機会となっている。

2 学校教育推進の視点

【目指す生徒像】
 ○自ら考え、行動することができる生徒
 ○心と体を鍛え、最後までやり抜くことができる生徒
 ○ふるさとを誇りに思い、ふるさとを語ることができる生徒
 ○「なりたい自分」を思い描き、その実現のために、粘り強く主体的に取り組むことができる生徒

6 総合的な外部評価

○学校全体の落ち着き、生徒の表情の穏やかさ、教職員の精力的な活動ぶりを高く評価いただいた。そんな中、次のことについて取り組むよう助言を受けた。
 ①生徒の主体性、自主性を育む教育を推進すること。
 ②理論だけでなく生活に密着した授業をしていくこと。
 ③いじめについては、しっかりと対応していくこと。
 ④読書の習慣を身に付けさせること。
 ⑤情報通信機器使用ルールを守らせる教育を推進していくこと。
 ⑥生徒たちに地域の一員としての自覚を高めさせていくこと。
 ⑦勤務時間の適正化は組織として前向きに取り組むこと。等

3 総合的な自己評価

<成果>○新型コロナウイルス感染症により教育活動が制限される中、学校教育目標の達成のもと、教職員が組織的に教育活動を遂行し、生徒が安心して生活できる環境づくりを進めることができた。
 ○教師主導型の授業を見直し、生徒同士の教えあい、学びあう学習をできるだけ多くの場面で取り入れるようにしている。○教職員に「生徒の良いところを見つけて積極的に褒める」という姿勢は強まっている。
 ○「チーム北中」が機能し、一枚岩の指導体制が構築できた。
 <課題>○生徒の主体性・自主性を高める教育の推進（生徒会活動の活性化） ○一人一人の学力を高める授業の充実 ○将来の夢や希望をもって生活する生徒の育成 ○地域行事への積極的参加促進（地域の核となる学校づくり）
 ○新学習指導要領全面実施への対応 ○勤務時間の適正化・業務改善

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	5つの継続・実践徹底事項の推進、生徒が主体的に学ぶ授業づくり	B	○全教科で「5つの継続・徹底実践事項」を継続していく。 ○新学習指導要領全面実施に係る「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりに取り組む。 ○個別最適化の学びをめざすICT機器（タブレット）を有効に活用する。 ○道徳の授業の充実のため、見取りやローテーション授業を取り入れる。 ○生徒会活動を活性化させ、生徒の主体性・自立性を高める。
	・ 道徳教育	授業時間の確保、研究授業、評価研修、道徳実践力の育成	B	
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	交流活動を意識した言語活動の充実、4技能の総合的な育成	A	
	・ 総合的な学習の時間	ふるさと学習を含めたキャリア教育の充実	B	
	・ 特別活動	生徒の主体的活動の場の設定	B	
学校運営	・ 開かれた学校づくり	各種たよりの発行、HPの随時更新、地域活動への参加推進	B	○開かれた学校づくり推進のため、より丁寧に学校の様子を発信し、理解・協力を求めている。 ○生徒への共感的理解を進め、安全・安心な教育環境づくりを進めていく。 ○校務支援システムの有効活用、ペーパーレス会議の導入、業務の見直し等を進め、勤務時間の適正化を推進していく。 ○新学習指導要領の全面実施に伴い、教育課程、評価の研修を進めていく。また1人1台タブレットの有効活用に向けた研修を充実していく。 ○校区内小学校との関係づくりを強化し、一層の生徒理解に努める。
	・ 勤務時間の適正化	定時退勤日、ノ一部活・ノ一会議デーの完全実施	D	
	・ 引継ぎ連携システムの強化	小学校・高等学校との情報交換の充実	B	
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	生徒に寄り添う姿勢での生徒指導、情報共有と協働体制の強化	A	
	・ 職員研修の推進	新学習指導要領への準備、GIGAスクール実現への研修推進	B	
	・ 危機管理体制の整備	実効性のあるマニュアルへの見直し	B	
課題教育	・ ふるさと教育	ふるさとを自分の言葉で説明ができる生徒の育成	B	○それぞれの教育活動が意義深い活動となるよう、ねらいや目的を明確にしていく。 ○生徒会活動を活性化させ、生徒の主体性・自立性を育む教育を推進する。 ○生徒を地域の行事に積極的に参加させ、地域から様々なことを学ばせる。また、このことにより、地域の活性化につなげていく。 ○キャリアノートや「進路の道標」を有効に活用し、自分の将来についてしっかりと考えさせ、夢や目標を持って生活する生徒を育てる。 ○人権尊重の理念については、あらゆる教育活動を通して理解を深める。 ○読書習慣を定着させるため、委員会活動を中心に、図書室利用の促進を図る。魅力ある図書室に整備し足を運ぶ生徒を増やす。家庭の協力を求める。 ○睡眠記録表の取組を継続し、生徒の心身を健康な状態に保つ。 ○日記指導や教育相談、生徒観察を充実し、自分の思いを素直に語れる環境づくりに努める。 ○生徒が安心して通える学校、保護者が相談しやすい学校づくりを行う。
	・ コミュニケーション教育	自分の考えを主張し、他者の考えを受容することができる生徒の育成	B	
	・ キャリア教育	将来への夢を描ける生徒の育成、キャリアノートの活用	C	
	・ 体験活動	豊かな人間性と社会性の育成	B	
	・ 人権教育	いじめを絶対に許さない校風と思いやりの育成	A	
	・ 特別支援教育	支援を要する生徒への適切な対応、全教職員の共通理解のもとでの支援	B	
	・ 環境教育	教科、学活などの取組の充実、学級花壇整備と花や野菜栽培	B	
	・ 安全教育・防災教育	毎月の安全点検、交通立番、防災訓練、交通安全教室の実施	A	
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	眠育指導の継続、保健だよりの発行、健康相談の充実	A	
	・ 読書活動	朝読書の実施と図書室の開放、家庭読書の推奨	C	

自己評価の妥当性

【教育課程】
 ○学習指導において「5つの継続・実践徹底事項の実践」を91%の教職員が実践しているが、「生徒の学ぶ意欲・関心（主体性）が高まっているか」は80%にとどまっている。
 ○道徳教育に関して、「道徳の時間を要とし、豊かな心を育む教育に取り組んでいるか」について97%の教職員が肯定的に捉えている。一方、道徳の授業に対しての意欲度は82%にとどまっている。
 ○英語検定等、資格試験に挑む生徒が増えている。

【学校運営】
 ○学校だよりは定期的に発行できたが、20%弱の保護者が、学校の情報発信について不十分だと感じている。また、地域の活動に積極的に参加している生徒は60%未満である。
 ○勤務時間の適正化の推進については60%の教職員が否定的に回答している。業務改善が進んでいない実態がある。
 ○生徒に寄り添う生徒指導を推進した結果、生徒から教職員への教育相談が増え、トラブルを未然に解消できた。

【課題教育】
 ○「委員会活動等への積極的に取り組む生徒の育成」について、97%の教職員、90%近い保護者が肯定的に回答している。豊かな人間性と社会性の育成につながっている。
 ○「危険から身を守り、安全を確保できる生徒の育成」について95%の教職員が肯定的に回答している。
 ○進路についての情報提供や指導について、不十分だと感じている保護者が25%いる。また、キャリアノートの計画的活用について半数以上の教職員ができていないと感じている。キャリア教育については課題がある。
 ○朝読書は継続的に行っているが、生徒の読書活動が充実していないと感じている教職員が25%いる。家庭での読書も60%以上の保護者が不十分だと感じている。

※上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色

※評価項目は各校の実態に応じて設定するが、ある活動・重点項目を追加してもよい。

外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。